

□・BASF

We create chemistry

カスタード[®]乳剤

脱皮阻害型殺虫剤 いろいろな害虫に効く!いろいろな作物に使える!

ネギハモグリバエ
クロバネキノコバエ類
ネギアザミウマなど

ねぎの主要害虫の 同時防除が可能!



クロバネキノコバエ類



ネギアザミウマ



シロイチモジヨトウ



ネギハモグリバエ

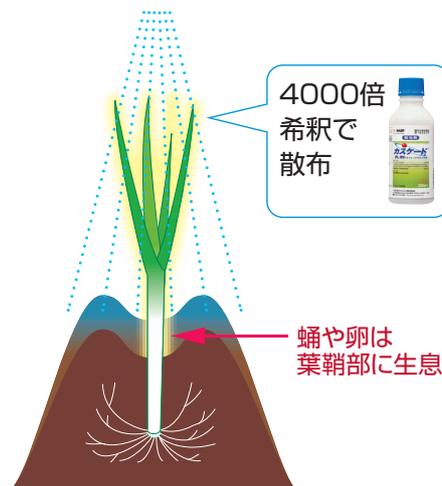
■適用害虫と使用方法(ねぎのみ抜粋)

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルフェノクスロンを含む農業の総使用回数
ねぎ	シロイチモジヨトウ ネギハモグリバエ ネギアザミウマ クロバネキノコバエ類	4000倍	100~ 300ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内

上手な使い方

クロバネキノコバエ類は一年を通じて発生が認められ、栽培初期から有効な薬剤で防除することが重要。

- カスケード乳剤は幼虫の脱皮を阻害し害虫を防除するIGR剤
- ねぎ栽培の初期から使用し、発生密度を減らすことが重要
- 土寄せ前の散布が効果的
- クロバネキノコバエ類は葉鞘部分に生息しているので、多めの液量での散布が効果的
- 秋～冬期の茎基部が深い時期は、浸透性を高める展着剤を加用すると更に効果的



試験成績

クロバネキノコバエ類に対する防除効果

平成28年度 埼玉県農業技術研究センター

【試験概要】

発生状況:多発生

耕種概要:冬扇3号、露地栽培、慣行施肥

定植:4月29日

処理月日:9月2日(土寄せ前)

処理方法:茎葉散布(150ℓ/10a相当量)

展着剤(スカッシュ1ml/ℓ)

調査:各区任意の5株の掘り取り(土壌ごと)、茎部・根・根付着土壌中の幼虫、蛹数

※上記は効果確認のための比較試験です。実際の散布水量についてはJA・指導機関等のアドバイスを参考にしてください。

■カスケード乳剤 ■無処理 ■補正密度指数



ネギネクロバネキノコバエとは

農林水産省「クロバネキノコバエ科に関する情報」より抜粋

【本種特徴】

- ①成虫の体長は雄1.8～2.1mm、雌1.9～2.3mmである。幼虫は白色を帯びた透明の体で黒色の硬い頭部を持ち、老熟幼虫の体長は4mm程度である。
- ②発生は大雨で浸水するような場所や排水の悪いほ場で多い。

【被害の特徴】

ねぎでは、本種幼虫が地下部葉鞘や盤茎を食害する。外葉が枯れ、生育が悪くなり、掘り取ってみることで本種幼虫の発生に気づくことが多い。



成虫



幼虫と被害

このチラシの記載内容は2019年12月現在のものです。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●使用後の空容器は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。●防除日誌を記帳しましょう。

BASFジャパン株式会社

東京都中央区日本橋室町3丁目4番4号 OVOL日本橋ビル3階
☎0120-014-660 <https://crop-protection.basf.co.jp/>